

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

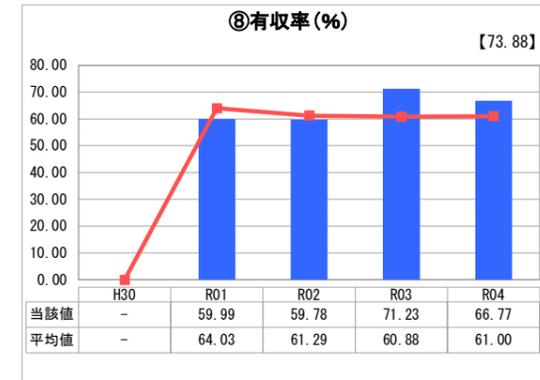
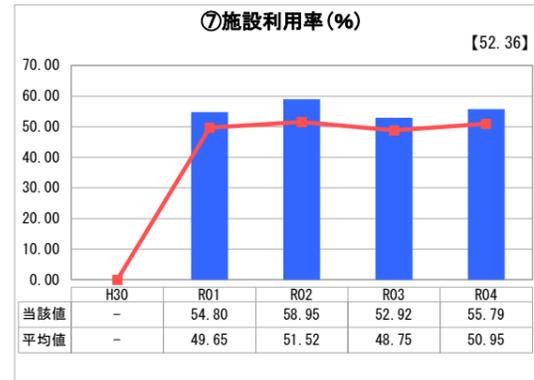
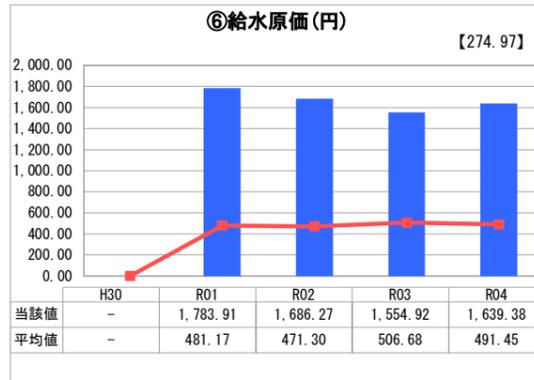
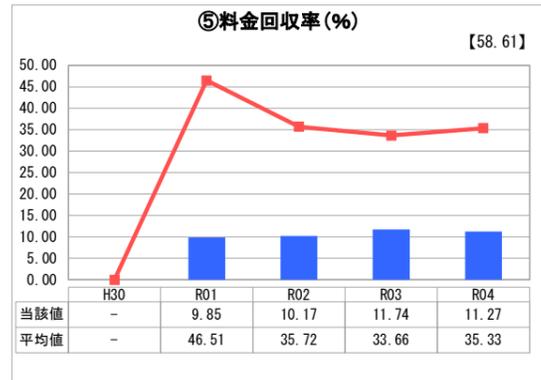
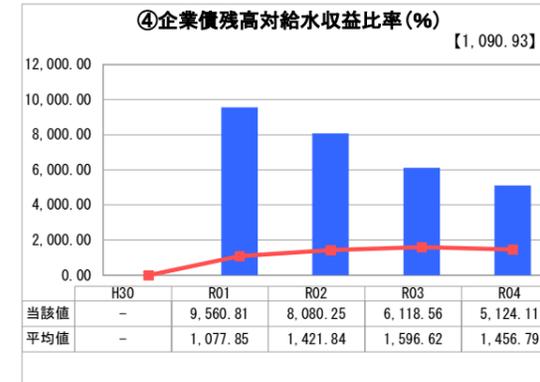
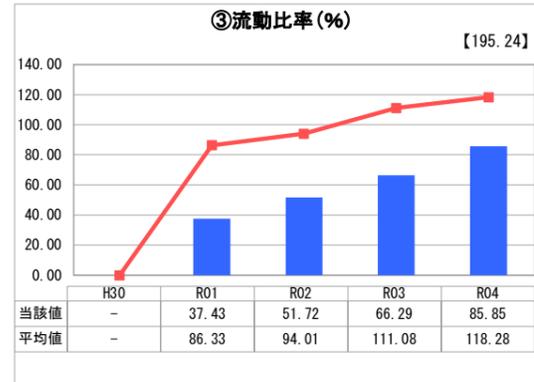
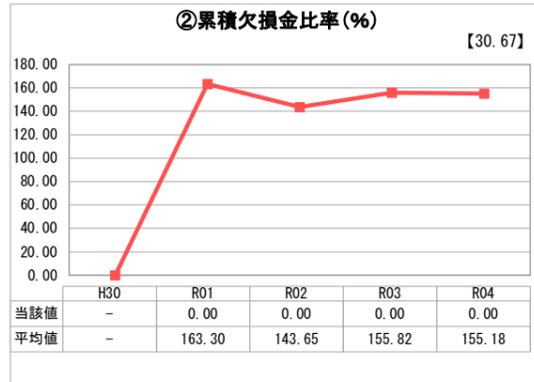
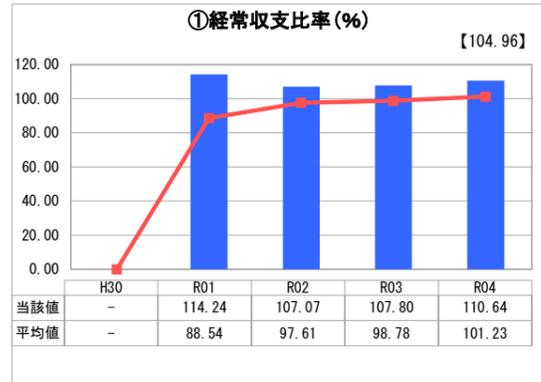
宮崎県 西都市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	54.16	0.44	3,014	

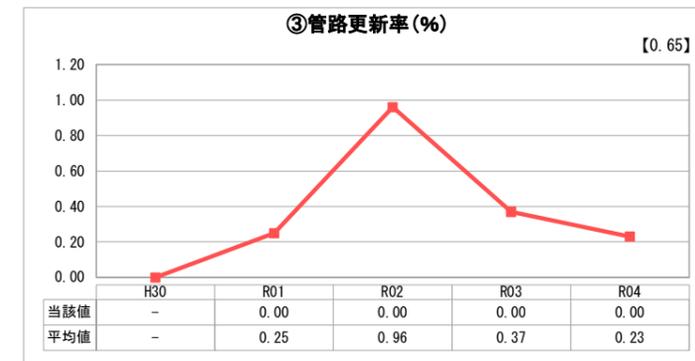
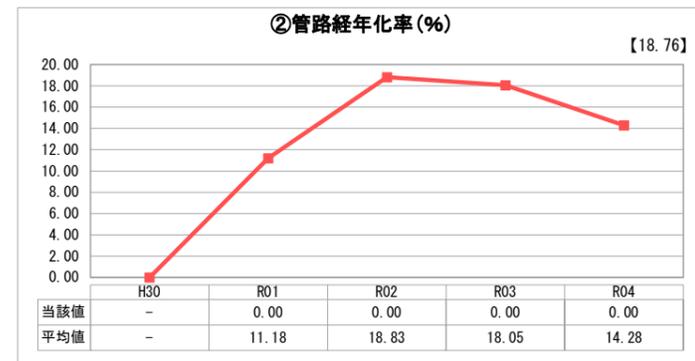
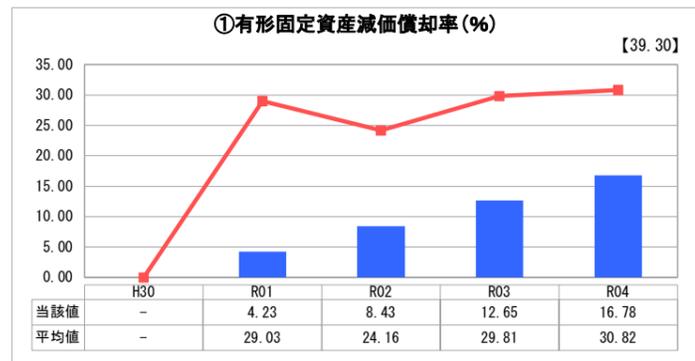
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,867	438.79	65.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
121	0.40	302.50

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は100%を上回っており、「累積欠損金比率」は0%ですが、「流動比率」が85.85%と指標である100%以下であり、全国平均及び類似団体平均を下回っています。

「料金回収率」は11.27%で、100%を大きく下回っており、給水に係る費用を料金収入で賄えず、一般会計からの繰入金に依存している状況にあります。また、簡易水道事業は規模が小さく、経常費用に対して有収水量が少ないため「給水原価」が高額となり、料金収入のみでは経営が困難な状況となっております。

「企業債残高対給水収益比率」は、全国平均及び類似団体平均を大きく上回っていますが、これは、料金収入が少ないことに加え、安全で安定的に水を供給するために浄水設備や送水管の整備などの必要不可欠な施設の整備を行うため、企業債を借入れたことによるものです。

「施設利用率」は、全国平均及び類似団体平均を上回っており、令和4年度におけるの最大稼働率は83.06%、負荷率は67.17%であり、施設規模はほぼ適正な範囲にあると思われます。

「有収率」については、類似団体平均以上ではありますが、66.77%で100%を大きく下回っているため、引き続き漏水調査等により有収率の向上を図り、効率性を高める必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超えた管路がないため、経年化の状況を示す「管路経年化率」は0%となっています。また、漏水等による布設替も行わなかったため、「管路更新率」も0%となっています。

## 全体総括

経営状況については、料金収入で費用を賄えず一般会計からの繰入金に依存している状況にあります。また、企業債残高対給水収益比率も高いことから、今後の施設更新等の財源を確保するために、上水道事業と合わせて令和5年4月に料金を改定しました。

施設の老朽化については、管路において法定耐用年数を超えたものはありませんが、施設全体の更新には多大な費用が必要となることから、重要度・優先度を踏まえた更新投資の平準化を図り、計画的・効率的な施設の更新を行うこととしております。